

東洋文庫とモリソン・コレクション

濱下 武志

(東洋文庫研究部長)

モリソン一家とモリソン・コレクションについて概要と時代背景を知ることで、同コレクションの資料的価値と利用方法、その歴史的意義について考える。具体的に石炭をとりあげ、東洋文庫における資料研究課題を提起する。

1. モリソンとその時代：略年譜、義和団の乱略年表、地図（義和団の乱時期、北京外交官区（東交明巷）とモリソン自宅・防衛線の縮小）
2. モリソン・コレクション
 - 1) モリソン・コレクションの構成と内容
 - 2) Asiatic Library
 - 3) 規模
 - 4) 内容
 - 5) 地域
 - 6) 言語
 - 7) 構成：書籍
 - ① 110 種以上の定期刊行物
 - ② 東方見聞録、辞書類、日露戦争関係、西洋宣教師による中国観察、動植物、地理・考古・資源
 - ③ 6000 冊パンフレット
 - ④ 中国とモリソン文庫：翁文灝、中央研究院近代史研究所資料館（台湾）
 - ⑤ マニユスクリプト、マカートニー使節記録
3. 東洋文庫の設立とモリソン文庫の拡大
 - 1) 洋書・日本関連、漢籍、ペリオ・スタイン文書複製、キリスト教関係資料
 - 2) 研究地域の増加：満蒙・中央アジア・ペルシャ・西アジア・インド・南洋
4. その後の時期とモリソン家
 - 1) Ian Morrison
 - 2) Alastair Morrison と Hedda Morrison 夫妻
 - ・ 東洋文庫「モリソン2世コレクション」
 - ・ ハーバード・エンチン「ヘッダ・モリソン写真コレクション」
 - 3) Colin Morrison
5. 東洋文庫資料研究の課題：アジア諸言語資料収集
 - 1) モリソン・コレクションとアジア資料研究図書館
 - 2) モリソン・コレクションを通じた書誌研究・書籍研究
 - 3) 各種西洋資料書籍群の原典保存・修復

使用資料：

モリソンパンフレット（図4）

紙と色彩の保存環境と修復——利用のための保存——

稲葉 政満

（東京藝術大学大学院教授）

紙と色彩の性質と劣化の原因を理解することで保存における問題点を考え、その対策と処置を具体例から見ていく。また、それを前提として書籍の長期保存と修復について検証する。

1. 紙と色彩の保存環境

- ・セルロース，pH，酸性紙とアルカリ性紙
- ・資料損傷の原因：水，酸素，エネルギー（温度，光）
- ・衣類の虫の活動条件：ヒメカツオブシムシ，ヒメマルカツオブシムシ，イガ，コイガ
- ・衛生管理と進入の防止：掃除，進入の防止
- ・害虫などの発見（日常点検）：目視，モニタリング
- ・管理の方法：管理カレンダー，害虫発生時の対処
- ・光：光量調節，紫外線及び赤外線除去，照度計，紫外線照度計，光モニター
- ・彩色材料：有機系と無機系
- ・共役系の増大と吸収波長の推移
- ・綿を白く見せる方法
- ・大気汚染：塵，亜硫酸ガス，窒素酸化物，オゾン，密封（窒素，アルゴン置換）
- ・パッシブインジケータ（酸・アルカリ用）
- ・国立公文書館の書庫環境調査：温湿度，化学調査，生物系調査
- ・材料の寿命（保存期間の期待値）：材料，予測寿命，機械可読システム
- ・デジタル情報の寿命
- ・保存コスト
- ・史料保存プロジェクト，大規模紙資料調査
- ・複写（機）の歴史：こんにやく版，謄写版，青写真，ジアゾ複写機，直接静電複写機，間接静電複写機
- ・災害時への備え
- ・低酸素濃度，収蔵庫

2. 保存・修復の原則と利用のための保存

- ・原形保存，安全性の確保，可逆性の確保，記録，保護から利用へ
- ・紙資料の材質調査（非木材繊維，木材繊維，再生紙），新しい描画材料
- ・産地や製造時期の推定
- ・紙資料の修復方法：フラットニング，剥落止め，本紙の補填，強化
- ・クリーニング：ドライクリーニング，ウェットクリーニング（水処理）
- ・カビ，脱酸性化処理
- ・漂白
- ・濡れた紙資料の対処法